



# 落穂会だより

秋季号 2015.10

社会福祉法人 落穂会 障害児入所施設 障害者支援施設 地域生活支援センター 障害者支援施設 障害福祉サービス事業  
 鹿児島市皆与志町2503番地 (Tel 238-4821) (Tel 238-4821) (Tel 243-1112) (Tel 244-3551) 第二旭福祉センター (Tel 244-3551)  
<http://www.asahigaokagakuen.jp/> <http://www.asahi-center.com/>



「乗馬療法の開始に向けて」  
 あさひが丘乗馬倶楽部「シュバル」  
 日中活動統括主任 大迫雄介

乗馬療法を開始するに当たって、南九州市森林馬事公苑の乗馬インストラクター、日高大志郎氏の下で研修を積んできました。

これまで生き物を飼ったことがなかった私にとって初めは、自分の身体の何倍もある大きな馬に恐怖心と、聞いた事のない専門用語に戸惑いばかりでした。研修を通して恐怖心も和らいでくると、馬の優しい眼や、大きな身体で甘えてくる所が可愛く癒されている自分がいました。また、馬に乗るのは身体全体を使い、良い運動になると身を持って実感しました。

あさひが丘で馬を飼う事が決まった時、競馬好きのAさんが、本当に馬にまたがる姿、乗馬は難しくても馬との触れ合いを楽しみに「シュバル」に来る方、学校が休みの日に、掃除を手伝ってくれる子供たちなどが頭に浮かびました。更には、地域住民の方が馬を見に来たり、乗りに来たりする様子など色々です。

そんな事を考えているとシュバルが、人の集まる場所になって欲しいと思うようになりました。乗馬倶楽部「シュバル」は、鹿児島市本名町のあさひが丘学園みかん園隣りにあります。「シュバル」はフランス語で馬(cheval)を意味します。厩舎や馬場も完成し、ミニチュアホースのラン、ポニーのエース、中半血(サラブレッドより一回り小さい馬)のアルフレックスと三頭の馬も入厩しています。

乗馬を教えられる程の技量は無く、引き馬からのスタートです。平成二十七年十月一日がプレオープン。平成二十八年四月一日がグランドオープン予定です。訪れる人たちに、馬を通して色々な事を感じてもらえるように、周囲の協力もお願いしながら担当者二名協力して行きたいと思っています。

## 第2回 あさひが丘 秋まつり

日時 平成27年11月7日(土) 10時から15時(予定)

※模擬店・舞台発表  
 Y.P.O. よしだポップスオーケストラ  
 鹿児島中央ライオンズクラブジャズバンド  
 K@ITO ジャグリング  
 乗馬体験  
 みかん狩り等楽しいイベントが盛りだくさんです。  
 ぜひご来場ください。



### 新任職員紹介



勝目 和樹 保育士  
 子供たちと毎日が楽しくなるように関わっていききたいです。



木藤 真生 支援員  
 楽しい仕事ができるように毎日笑顔で頑張ります。よろしくお願いします。



あさひが丘学園 蜂谷 知大 保育士  
 未熟ですが、頑張っていきたいと思えます。よろしくお願いします。



原田 陽子 支援員  
 一日でも早く皆様のお役に立てるよう努力していきます。



地域生活支援センター 新山 リカ 支援員  
 笑顔大切に、何事にも一生懸命取り組んでいきたいです。



ガーデンキッズ トリア 西田 沙織 保育士  
 毎日、笑顔で元気いっしょに頑張りますのでよろしくお願いします。



たやさず頑張ります。旭福祉センター ケーシオンをとり笑顔を福永 真妃子 支援員  
 利用者の方の良い所を伸ばしていく支援ができます。

### 退所者

あさひが丘学園 本村明日香さん(自宅へ)  
 前平あづみさん(やまびこ医療福祉センターへ)

地域生活支援センター 今西奈々さん(自宅へ)

### ベーカリー楓オススメ!



ランチBOX 400円

楓のランチBOXはメンチカツバーガーに、自家製ピクルスなどボリュームたっぷり!! 秋のお出かけのお供にぴったりの1品です。数に限りがあるのでお早めにご来店ください。

### 編集後記

九月も終わりに差し掛かり、だいたい日の暮れるのも早まり、朝晩が涼しく感じられる季節となりました。すなっぷスナッぷの写真を見ながら、いろいろな行事が、皆さんの楽しい夏の思い出となっていただければと思うところでした。

あさひが丘学園では、最近、一眼レフカメラを購入しました。落穂会だよりの写真がさらにパワーアップできるように、腕を磨いていきたいと思っています。(E)

◆ 行事報告 ◆

- 7月4日～5(土・日) お泊り療育  
児童発達支援「歩路・セルク・トリア」を利用して子ども達26名が参加し、地域生活支援センターでお泊り療育を行いました。雨の影響で屋外での活動は実施できませんでしたが、室内で夕食作りや創作などのプログラムを行うことができました。参加した子ども達からは多くの笑顔がみられました。
- 7月4日～5(土・日) キャンプ  
ワークショップあそもね利用者24名が参加し、八重山キャンプ場のログハウスを借りてキャンプを実施しました。当日は、あいにくの雨で屋外での活動は実施できませんでしたが、ログハウスで食事準備など普段体験できないことを経験することができ、参加された皆さんは楽しまれた様子でした。
- 7月9日～11日(木・金・土) 北海道旅行  
あさひが丘グループホーム利用者12名が参加し、北海道旅行に出かけました。ラベンダー畑や旭山動物園などを観光しました。鹿児島では経験することができない広大な大地や食事を堪能し、皆さん楽しまれた様子でした。
- 7月14日(火)、28日(火) 口腔保健センターのブラッシング指導  
あさひが丘にて、歯科衛生士指導のもと音波ブラシの使用方法、口のあけ方についての指導がありました。直接支援職員42名が指導を受けました。利用者支援上、説明が聞けなかった職員については指導風景を撮ったビデオを見てブラッシング方法の習得に努めています。今後の口腔ケアに生かしていきたいと思ひます。
- 7月18日(土) 塚田神社六月灯  
塚田神社で六月灯が開催されました。あさひが丘、旭福祉センターの入所・グループホーム利用者も六月灯に参加しました。ステージでの歌の披露や、模擬店での買物を楽しみました。
- 7月18日(土) 第6回フットサル大会  
あさひが丘からフットサル大会1部リーグに利用者9名が参加しました。2試合を行い、2試合とも好ゲームでしたが、敗れてしまい決勝トーナメント進出はできませんでしたが、参加した利用者からは楽しかったけど悔しかったなどの話が聞かれました。来年は決勝トーナメント進出に向けて、練習に取り組んでいきたいと思ひます。旭福祉センターからも三連覇を目指し、出場しましたが惜しくも一回戦敗退となりました。来年は優勝を目指して頑張ります。
- 7月20日(月) Y.P.O夕涼みコンサート  
あさひが丘で、海の日恒例となっているY.P.O夕涼みコンサートが開催されました。今話題の流行曲から往年のヒット曲まで幅広く演奏があり、みんなで歌ったり踊ったり、生の演奏に皆さんとても喜んでいました。
- 7月25日～26日(土・日) キャンプ  
旭福祉センターでは入所利用者28名がキャンプに参加しました。1日目はスターランドAIRAにてプラネタリウムを鑑賞し、夜はバーベキューを楽しみました。2日目は龍門滝、蒲生八幡神社やフォンタナの丘かもうでのランチバイキングを満喫しました。利用者の皆さんも楽しそうにしていました。
- 7月26日(日) 暑気払い  
グループホームあさひが丘入居者全員で城山観光ホテルのビアガーデンに出かけました。当日は台風の接近もあり、室内での実施になりましたが、おいしい食事とお酒を楽しむことができました。最後は参加者全員で記念撮影を行い、また来年も来たいと参加者からの希望もありました。
- 8月1日(土) 新任職員激励会  
あさひが丘学園新任職員23名と保護者14名の参加にて新任職員激励会がありました。新任職員への激励と保護者の方々の思いが拝聴でき仕事への励みとなりました。ありがとうございました。

七月

八月

八月

九月

- 8月1日(土)～12日(水) 個別相談2回目  
あさひが丘では、今年度2回目の個別相談がありました。50家族の参加があり個別支援計画の説明と同意をいただきました。
- 8月8日(土) 落穂会・ゆうかり夏祭り  
ゆうかり学園で落穂会・ゆうかりふれあい夏祭りが開催されました。ご当地アイドルのステージやバンド演奏、ジャンケンマンが来る等、大盛り上がり夏祭りでした。利用者の方々も楽しまれ、よい夏の思い出になったと思ひます。
- 8月10日(月) 学校児 夏季外出  
あさひが丘学園児童部、利用者7名・職員5名にて健康の森公園のプールに行きました。天気もよく、流れるプールや滑り台を楽しみとても嬉しそうでした。
- 8月12日(水) 家族総会  
旭福祉センターで家族総会が行なわれました。面談会をはじめ、決算等の報告を行いました。たくさん保護者の方に御参加頂き、ありがとうございました。
- 8月19日(水) 不審者対応訓練  
あさひが丘学園で、不審者対応訓練を行いました。利用者117名、職員32名、計149名が参加しました。訓練終了後は、立ち会ってもらった警察官より講話があり、不審者への対応などのアドバイスがありました。今後にも生かしていきたいと思ひます。
- 8月29日(土) 施設文化祭  
市民文化ホールにて施設文化祭があり、あさひが丘の利用者が文化祭鑑賞に出かけました。8施設の公演がありダンスや歌、楽器演奏など、さまざまな表現によるパフォーマンスに、会場も大いに盛り上がり利用者の方々も楽しまれた様子でした。
- 9月8日(火)～9日(水) キャンプ  
あさひが丘では、初めてのキャンプをさつま町北薩広域公園で行いました。利用者12名、職員9名の参加です。バンガローでのバーベキューと宿泊、公園内のアスレチック等、いつもと違う宿泊旅行に利用者みなさんと楽しそうでした。
- 9月11日(金) 不審者対応訓練  
地域生活支援センターでは初めてとなる不審者対応訓練を実施しました。対応する職員全員が初めての経験であり、普段あまり意識することがない訓練でしたが、利用者・子ども達の安全確保のため重要な訓練だと感じることができた内容でした。
- 9月13～15日(日・月・火) 大阪旅行  
グループホームあさひが丘利用者11名が参加し大阪旅行に出かけ、道頓堀やUSJを観光しました。テレビで見る観光名所で記念撮影をしたり、USJで映画アトラクションやジェットコースターを楽しみました。食事もおいしく、参加された皆さんは2泊3日の旅行を楽しむことができた様子でした。
- 9月17日(木) 民生委員・児童委員見学  
あさひが丘学園に、大竜地区民生委員・児童委員18名の見学者がありました。
- 9月23日(水) 一日外出  
旭福祉センターでは入所利用者31名と職員3名でかごしま健康の森公園に出掛けました。ブルーシートを広げ青空の下、お弁当を美味しく食べていました。また、芝生でサッカーをしたり展望台まで散策をしたりとシルバーウィーク最終日をみなさん満喫していました。
- 9月27～29日(日・月・火) 東京旅行  
グループホームあさひが丘利用者11名が参加し東京旅行に出かけ、上野動物園や東京ディズニーシーを観光しました。参加者が希望した観光地を巡ることができ、参加された皆さんは楽しむことができたようでした。

あさひが丘学園の小規模グループケア施設整備について

あさひが丘学園統括施設長 水流純大

平成二十四年四月に施行された改正児童福祉法により、知的障害児施設は障害種別が取り払われて「障害児入所施設」となり、あわせて二十歳以上の在所期間延長規定が廃止され、平成三十年三月末までに、①障害児施設として維持、②障害者施設に転換、③障害者施設と障害児施設の併設の三つの中から一つを選択し、経過措置期間内に移行することとなった。あさひが丘学園は、③障害者施設と障害児施設の併設を選択し、併せて障害児施設部分は小規模グループケア施設として整備するための施設整備要望書を平成二十五年度から県に提出してきたが、平成二十七年年度社会福祉施設等施設整備費補助金の交付が認められ、十月に着工することになった。

障害児入所施設の小規模グループケアとは、生活単位を四〜八人の小集団とし、より家庭に近い雰囲気の中で食事・入浴といった基本的な生活を営むとともに、小集団化するこ

とにより職員と入所児童が密接な信頼関係を結ぶことで、児童の情緒の安定を図り、児童の健全な成長・発達を促進するものである。当園が小規模グループケアに取り組むことになったのは、平成二十三年度の厚生労働省の研究事業である「障害児入所施設における小規模ケア化、地域分散化を推進する上での課題に関する調査」に私が研究委員として参画したことがきっかけである。

小規模グループケアは児童養護施設においては平成十六年に制度化され、徐々に整備が進んでいたが、障害児入所施設においては制度化されていなかったため、先駆的な取り組みを実践している事例が全国に十か所程度しかなかった。研究事業では、全国の障害児入所施設(当時は知的障害児施設)にアンケート調査を実施するとともに、先駆的取り組みを行っている施設への訪問調査や児童養護施設が行った同様の調査の比較検討などを実施した。この研究事業は厚生労働省の評価検討会で五段階評価中の四・五点と最高水準の評価

をされ、「障害児入所施設における小規模ケアの課題が、児童養護施設での取り組みと比較することで、より明確化・普遍化されたものとなった。子どもの発達において環境(住環境)は重要な役割を果たすため、小規模ケア化、地域分散化を推進することはたいへん意義がある。」として、障害児入所施設の小規模ケア化の重要性を指摘している。この研究事業の成果を踏まえて、平成二十四年度から小規模グループケア加算が創設され報酬上評価されることとなった。

当園の小規模グループケアは、各ユニットに八室の個室(入所七室、短期入所一室)とリビングダイニング、浴室、トイレ等を設け、食事や入浴、団らん等は基本的にユニット内で行う。何かのイベントでもない限り大食堂で何十人という人たちと一緒に食事をとることもなければ、銭湯のように大人数で入浴をするということもない、いわゆる普通の暮らしである。様々な理由から家庭で生活することができない子どもたちにとつ

て、少しでも家庭に近い環境で暮らしを営むことが子どもたちの豊かな成長につながることを確信している。

平成二十四年七月、小規模グループケアに先駆的に取り組んでいる岩手県の奥中山学園の公開セミナーに参加した時感じたのは、「暮らしをていねいに営む」ことの大切さである。「ていねいな暮らしの中で子どもは育つ」。私たちは、「暮らしをていねいに営む」ことを忘れ、やれ「行動障害への対応」だとか、やれ「自閉症児への療育」だとか言っつてはいないか。もちろん、障害の特性をよく把握し、その状態に応じた専門的な療育技術を磨き上げ、子どもたちが自らの課題を克服するための支援を行うことも私たちの大切な役目である。ただし、子どもたちの暮らしを預かっている私たちにとって、「子どもたちとの暮らしをていねいに営む」ことが前提で、その大前提の上に障害に対する専門的な支援が成り立つのではないかと改めて感じている。

今、奥中山学園をはじめ、先駆的に小規模グループケアに取り組んでいる施設に職員を派遣し、体験実習を行っている。その体験を基に当園の小規模グループケアの形を作っていく予定である。「子どもたちが豊かに育っていくためにはどうあるべきか。」職員たちの奮闘を期待したい。

# 「親子旅行」

さんぽみち



旭福祉センター 利用者  
末永 政雄

六月三十日の夕方、仕事が終わってから家に帰りました。次の日に鹿児島中央駅にお父さんと行き、中央駅近くのバスターミナルで高速バスにのって、福岡に行きました。福岡についてからお父さんがよくしていたホテルに地下鉄で行き、そして荷物をおろしてから福岡ヤフオクドームに行きました。試合開始まで時間があったので、ドームの外を歩きました。お店にはソフトバンクのグッズがたくさんありました。

試合は、福岡ソフトバンクホークス対埼玉西武ライオンズの試合でした。僕とお父さんは三塁側の西武側の内野席に座りました。ドームの中は、満員でした。初日は僕が大好きな西武ライオンズが勝ちました。

福岡二日目は、十一時頃に水族館に行ったあと、高速船にのり福岡タワーの近くでおりました。おりたばしょは結婚式ができるばしょでとてもきれいでした。そのあと福岡タワーに行つてさいじょうかいまでのぼりました。とってもけしきがきれいでした。そのあとまたドームに行きました。試合開始は十八時でした。僕

は試合前に西武ライオンズのタオルをかいました。この日もまた満員でした。試合はソフトバンクホークスが勝ちました。ソフトバンクが勝つたので、ドームはくらくらなり、勝利イベントが始まり、花火も上がりました。結果は一勝一敗でしたがいい試合が見れました。

## 「職員の皆様へ感謝」

あさひが丘学園 保護者  
横井 晴夫

大樹は昭和五十四年四月三十日に私達の長男として生まれました。市立病院の周産期センターの保育器の中で大樹を初めて見ました。未熟児として生まれましたが、母乳もミルクも良く飲み、味噌汁の大好きな、丸々な男の子として成長しました。

行動も活発でしたが、なかなか言葉が出なくて、色々な病院や施設で相談しましたが、原因は判りませんでした。見た目は、普通の男の子と変わりません。色々と妻と相談し、自分達では甘やかし過ぎたり、厳し過ぎた

り、親では教育は難しいと判断し、あさひが丘学園に預け、武岡小中と学園より通学する様になりました。寂しい思いをしました。妻が泣き事も言わず、頑張ってくれた事が救いでした。

入所後は、学園の色々な催し物に参加させて貰い、大樹の成長が日々感じられ、職員の方々の暖かい支援と愛を感じ、自分の家として生活している日々感謝しています。

帰省の時も、あさひが丘に帰る時も、いつも嬉しそうに帰って行きます。

少し寂しい気もしますが、あさひが丘学園が自分の家だと思っているのだと思います。

大樹の一番好きな母を亡くして理解しているのは、判りませんが、学園の皆様のおかげで楽しく過ごしている事に本当に感謝しています。これからも健康で楽しい学園生活を過ごしてくれる事を願っています。これからも大樹を宜しくお願します。

## 「音楽」



地域生活支援センター 職員  
横井 香菜恵

私がピアノを習い始めたのは五歳の頃でした。姉や友人と一緒にピアノ

のレッスンに通ったり、発表会に出ていたのがとても懐かしく思います。

小学校高学年や中学生になると、遊びや部活が優先され、全く練習もせず、週に一回のレッスンに通うこともありません。「やめたい」と言う私に対して、毎回、両親は「続けなさい」の一言でした。高校生になり、音楽好きの友人に出会い、音楽療法と言言葉を知った私は、短期大学で音楽療法を専攻しました。短期大学と専攻科の四年間、音楽を通して様々な人と出会い、いろいろな刺激を受け、たくさんことを学びました。

現在、放課後等デイサービス我路の活動の中で、月に二回音楽療法をさせて頂いています。まだまだ迷う事や反省する点も多く、試行錯誤しながら行っていますが、私は音楽を通して、利用者の方と一緒に歌を唄ったり、体を動かす時間がとても好きです。

長い期間ピアノのレッスンを続けさせて頂けた両親に感謝をする共に、これからも音楽を通して皆さんの出会いや様々な事を学ぶことができたらと思います。また、今後も利用者の方と音楽を通して楽しい時間を過ごせたらと思います。

さんぽみち

今回は旭福祉センターの大正琴「サウンド・リピーター」のみなさんにスポットを当ててみたいと思います。(ある日の作業後、どこからともなく聞き覚えのある曲が流れている...音のする建物に向かうと大正琴を演奏している利用者のみなさんの姿があった)

○今回みなさんは、どこかで演奏を



「サウンド・リピーター」にスポット

披露する機会があるのですか?

森田さん「十一月一日にございし国民文化祭で演奏するよ。」

室屋さん「宝山ホールで演奏するんだー!」

大野さん「たくさんの人が聴きにきてくれるのかな?」

○今年は鹿児島で国民文化祭がありますよね!」

きつと大勢の方が聴きにきてくれると思いますよ。

○国民文化祭では何の曲を演奏するのですか?

末永さん「手のひらを太陽」と...あと...」

黒田さん「いつも夢を」だよー!」

末永さん「そうだった(笑)」

大野さん「今回は一曲だけだけど、演奏できる曲は百曲以上あるんだよー!」

○百曲以上!?!?!?すごいレパートリーの数ですね!」

○今回は何パートで演奏するのですか?

上山さん「いつも三パートあるよ」

畦浦さん「僕はソプラノパートだったかな?」

秋元さん「僕もソプラノだ!」

上山さん「僕はテナーパート」

森田さん「僕は...アルトパートだったかな?」

末永さん「森田さんアルトだよ(笑)僕と一緒にだから!」

○皆さんいろんなパートに分かれているのですか?

○大正琴を弾くときに難しい事はありますか?

瀬戸口さん「簡単にみえるけど結構難しいよ」

小倉さん「僕は弾けるよー!」

畦浦さん「練習を積み重ねることが大事だよ」

上山さん「僕は難しいところを練習したらできるようになったんだー!」

大野さん「最初は右手と左手をバラバラに動かすのが難しかった」

○右手と左手で動作が違うと難しそうですね。

上山さんのように練習してできるようになるととても嬉しいですね。

○演奏するときに気をつけている事はありますか?

宝満さん「周りを聴いてテンポを合わせて弾いているよ」

畦浦さん「僕は弾くときに必死だよ...」

秋元さん「遅れないようにしているよ」

室屋さん「間違えないように演奏しているよ」

○では最後に、今回の演奏会で目標にしていることはありますか?

黒田さん「間違えないように演奏したいな」

畦浦さん「僕も間違えないように頑張りたい!」

秋元さん「僕はテンポに遅れないように弾きたい」

室屋さん「楽しく演奏したいな」

大野さん「たくさんの人に聴いてほしいな」

○みなさん良い目標を持っていきますね

残りの時間一杯練習して良い演奏ができるといいですね

今回、



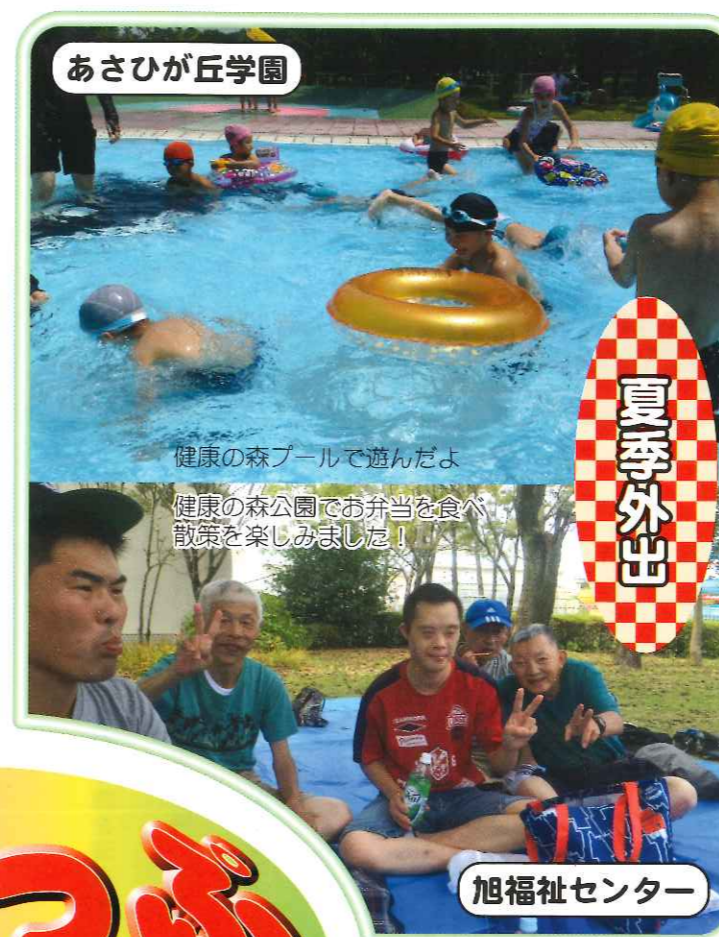
↑大正琴はこんな風になっています!大正時代にタイプライターをヒントにこの楽器が発明されたらしいです。



↑左手で番号がついた鍵盤を押しながら右手で弦を弾いて音を出します。楽譜も音符と一緒に左手の番号が書いてあります(難しそう~汗)



↑みなさん一生懸命大正琴を弾いています



# すなっふスナツプ

